

# 敬愛大学総合地域研究所シンポジウム2020: 災害に強いまちづくり

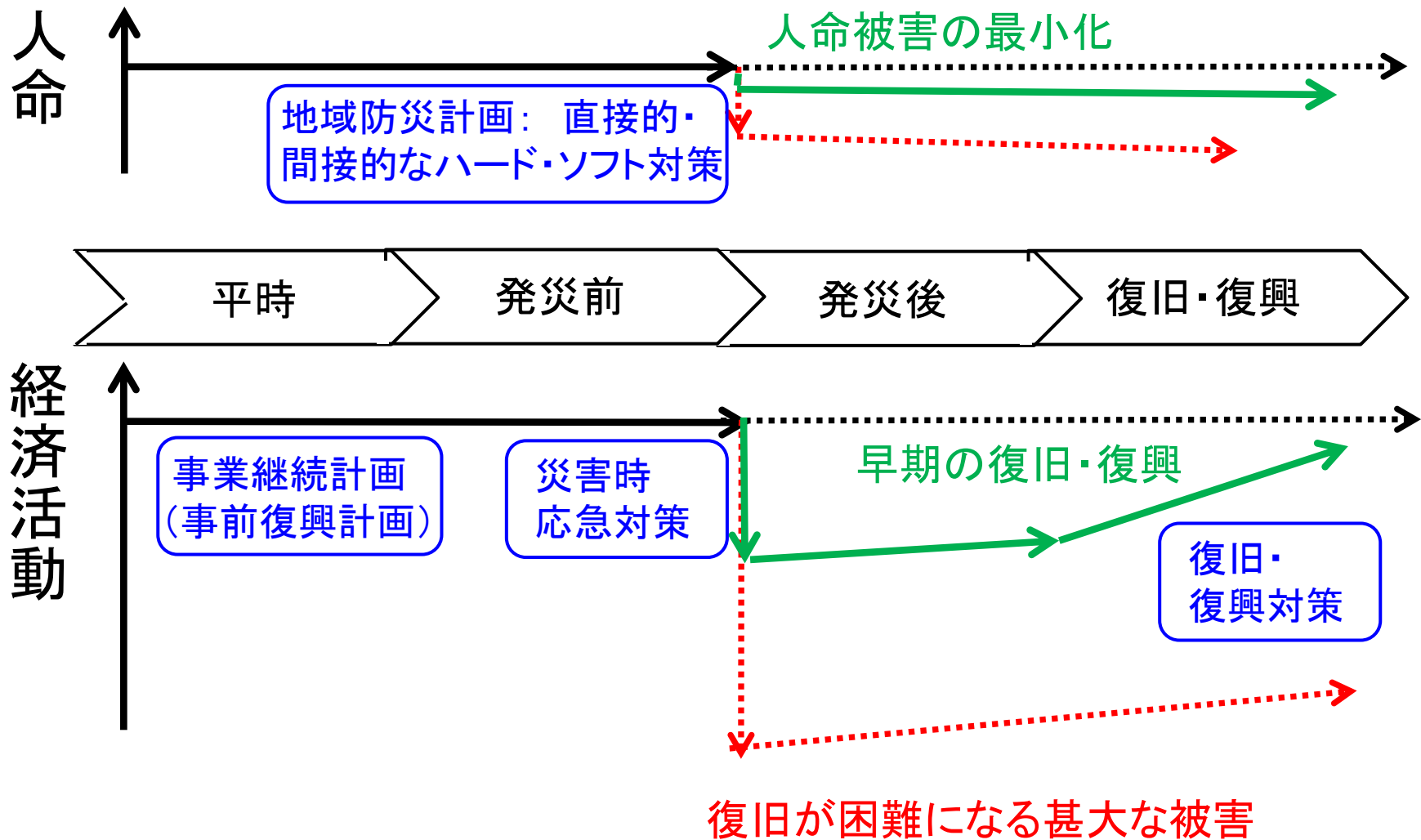
## 背景: 災害の激甚化

	近年の例	激甚化の要因
水害	2019年台風15号、19号 2020年7月豪雨	地球温暖化による降雨量増加、今後さらに平均気温は上昇
震災	2011年東日本大震災 2016年熊本地震	レベル2(1000年に1回の頻度)の地震発生、首都直下・東南海地震の現実味
感染症	1918年スペイン風邪 2020年新型コロナ	新型コロナ蔓延中、熱帯雨林開発・経済グローバル化でウイルス封じ込め困難

# 対策：人命被害を発生させない 直接的・間接的なハード・ソフト対策

	直接的	間接的
ハード	堤防・遊水地	二線堤・霞提
	防波堤・防潮堤	避難路・避難ビル
	国境封鎖・都市封鎖	マスク・手洗い
ソフト	ハザードマップ・ 土地利用規制	防災教育・ 避難指示
	ハザードマップ・ 土地利用規制	防災教育・ 避難指示
	テレワーク・地方分散	感染症教育・三蜜回避

凡例：水害 震災 感染症



## 対策: 早期の復旧・復興のための対策

(対策に関する基本的考え方は水害、震災、感染症で共通)

# シンポジウムのねらい

水害、震災を中心に

1. 過去の災害の内容、被害の状況をふりかえる
2. 被害が大きくなった要因、被害が軽減された要因を分析し、人命被害を発生させない対策、早期の復旧・復興のための対策を検討する
3. 「災害に強いまちづくり」にむけての自助・共助・公助の仕組み、教訓伝承の仕組みを考える